

本 会 記 事

一般社団法人日本植物病理学会令和7年度第3回評議員会議事録

日 時：2025年11月22日（土）14時00分～16時30分
場 所：日本植物防疫協会ビル会議室（〒114-0015 東京都北区中里2-28-10）

オンライン（Zoom ミーティング）によるハイブリッド開催
出席者（対面）：

秋光和也，有江 力，磯貝雅道，一瀬勇規，大里修一，大島研郎，大藤泰雄，海道真典，兼松聡子，児玉基一朗，佐藤 衛，塩見 寛，志村華子，須賀晴久，高垣真喜一，竹下 稔，中馬いづみ，津田新哉，東條元昭，中保一浩，長谷 修，濱本 宏，曳地康史，平塚和之，藤 晋一，三瀬和之，守川俊幸，森山裕充，渡辺京子，山次康幸，吉田重信，善林 薫，高橋英樹会長，眞岡哲夫副会長，佐々木信光庶務幹事長

出席者（オンライン）：秋野聖之，草場基章，小林括平，清水将文，竹本大吾，柘植尚志，土佐幸雄，平田久笑，渡辺京子

以上評議員43名（定員53名，欠席者10名：青木孝之，稲田 稔，萩原寛之，篠原弘亮，鈴木信弘，相馬 潤，高野義孝，中島千晴，古屋成人，増田 税）

幹事出席者：松下陽介庶務副幹事長，藤本岳人庶務幹事，加藤 寛会計幹事，浦山俊一副会計幹事（欠席者：埋橋志穂美庶務幹事）

開会の挨拶

I. 審議事項

- 令和8年度功績者の推薦について（平塚功績者推薦委員長）
 - 名誉会員に佐野輝男氏，吉川信幸氏が推薦され，承認可決された。
 - 永年会員に荒瀬 榮氏，岡山健夫氏，柿嶌 眞氏，花田 薫氏，Elliot W Kitajima氏が推薦され，承認可決された。
- 令和8年度論文賞選定結果について（磯貝編集委員長）
 - 磯貝編集委員長から以下の2報が選定されたことが報告され，承認可決された。
Mitsuo Aono, Takanori Miyoshi, Haruka Yagi, Shinichi Shimizu, Tsuyoshi Shinozaki, Takashi Yaeno & Kapppei Kobayashi (2024) Comprehensive survey of copper resistance and analysis of responsible genes in *Pseudomonas*

syringae pv. *actinidiae* biovar 1 and biovar 3 isolates from Japan. *Journal of General Plant Pathology* 90: 134–143.

Kaichi Uchihashi, Takayuki Mitsunaga & Taketo Ashizawa (2024) Converter slag causes gradual collapse of chlamydospores of the rice false smut fungus and reduces hyphal invasion into rice roots. *Journal of General Plant Pathology* 90: 277–287.

- 令和8年度学会賞，学術奨励賞選定結果について（高橋賞選考委員長）

- 高橋会長から学会賞，学術奨励賞選定結果が報告され，学会賞に3名，学術奨励賞に3名が選出されたことが報告され，評議員の承認を受けた。選考結果は以下の通りであった。

学会賞：

芦澤 武人氏「水稲病害の生態・発生予測及び防除に関する研究」

川崎 努氏「イネにおける誘導性免疫の分子機構に関する研究」

藤 晋一氏「新興・再興病害の発生生態および防除に関する研究」

学術奨励賞：

安達 広明氏「NLR型受容体による過敏感細胞死誘導の分子機構に関する研究」

柏 毅氏「亜熱帯地域で発生する植物病害の生態と防除に関する分子遺伝学的研究」

北沢 優悟氏「植物病原細菌のエフェクターによる宿主因子分解機構の研究」

- 令和8年度日本農学賞受賞候補者選定結果・推薦について（高橋賞選考委員長）

- 日本農学賞受賞候補者選定結果が説明され，増田 税氏を推薦することが報告され，評議員の承認を得た。

- 選考方法の変更に伴う課題等について，学術奨励賞では自薦が複数あり，候補者の掘り起こしに成功した一方で，学会賞，論文賞，日本農学賞では，1次投票の投票率の低さが課題となったため，次年度以降リマインドメールや論文リストの活用等を検討したい旨の説明があった。

- 令和8年度事業計画書ならびに収支予算書について（佐々木庶務幹事長，磯貝編集委員長，加藤会計幹事）

- 佐々木庶務幹事長から事業計画書について，加藤会計幹事から2026年度予算案について，磯貝編集委員長

から学会報編集計画案について、説明が行われた後、評議員の承認を得た。来年度の事業計画では副会長選挙のみ実施されること、予算案は冊子販売数の売り上げ減少を見込んだ収入とし、会議等は対面開催を想定して支出を計上していることが説明された。また、大阪大会の会場内に託児施設を準備する計画を踏まえ、ダイバーシティ推進委員会の予算を計上した旨の説明があった。

6. 令和7年度決算見込みについて（加藤会計幹事）

- 2025年度決算見込みについて説明が行われた後、評議員からの承認を得た。
- 会議の対面開催に伴い事業運営費が増大したことによって、最終的には400万円ほどの赤字見込みであるが、過年度の黒字分があるため学会運営に支障が生じない旨の説明があった。

7. 令和8年度大会準備状況について（久保大会委員長、海道評議員）

- 海道評議員から、大阪大会の準備状況及び予算計画の説明が行われた後、評議員からの承認を得た。
- 高橋会長から大会中の託児所経費について、節約する

ことを前提として、赤字になった場合は学会からの補填を検討している旨の説明があった。

- 曳地評議員より、会場費が不要であるのに参加費を上げる理由に関する質問があった。海道評議員より、バスの借り上げ等で費用がかさむという大阪大会で特有の理由があるとの説明があった。
- 秋光評議員より、高松大会時は市からの多くの補助が得られたとの説明があった。海道評議員から、大阪府や枚方市からの援助は見込めない旨の説明があった。また、高橋会長より、物価高騰等の影響で今後の参加費が上がる可能性について言及があった。

8. 令和8年度大会の仮払金増額申請について（加藤会計幹事）

- 大会事務局から仮払金200万円の申請があり、振り込みを実施した旨の説明があった。評議員からの承認を得た。

9. 令和10年度大会開催地について（九州地区：竹下評議員）

- 九州ブロックでの大会準備状況に関して、3月14日から宮崎観光ホテルでの開催を想定して準備を進めている旨の説明があった。評議員からの承認を得た。

10. 談話会・研究会規程の改正について（佐々木庶務幹事長）

- 種子病理研究会の研究会加入手続きに伴い、総会の決議が必要とされる談話会、研究会の創設に関わる規定（第2条2項）を削除したい旨の説明が行われ、評議員からの承認を得た。

談話会・研究会規程

現行	改正（案）
<p>（目的）</p> <p>第2条本会に評議員会の議を経て、談話会および研究会をおくことができる。</p> <p>2 談話会及び研究会は次のとおりとする。</p> <p>植物感染生理談話会、土壤伝染病談話会、植物細菌病談話会、バイオコントロール研究会、植物ウイルス病研究会、殺菌剤耐性菌研究会、EBC（Evidence-Based Control）研究会、植物病害診断研究会、植物病原菌類談話会、植物病害診断教育プログラム</p>	<p>（目的）</p> <p>第2条評議員会の議を経て、本会に談話会及び研究会をおくことができる。</p> <p>（削除）</p>
<p>附則</p> <p>1. この規程は2020年4月1日から施行する。</p>	<p>附則</p> <p>1. この細則は2020年4月1日から施行する。</p> <p>2. この規程は、2026年4月1日から施行する（令和8年度定時総会（2026年3月26日）において、第2条を改正）。</p>

11. 賞状の定型文化について(高橋会長, 佐々木庶務幹事長)
 - 学会賞及び学術奨励賞の賞状の定型文化について説明があり, 大阪大会より定型文の賞状を用いることについて評議員からの承認を得た.
 - 有江評議員より, 学会賞と奨励賞の文面は規約に記載されている授賞理由に合わせて変えた方が良いのではないかとの提案があった. 高橋会長より, 規約の内容を踏まえて再考し, 定型文案のメール審議を行う旨の提案があり, 了承された.
 12. ACPP2030 日本開催について(眞岡 ACPP 対応委員長)
 - 曳地評議員より, ACPP2024 (中国, 長春) の総会にて, 日本開催が全会一致で承認されており, 日本が ACPP2030 開催を引き受けざるを得ない状況であることが説明され, 評議員からの承認を得た.
 - ACPP2030 の日本開催の承認を受けて, 2026 年 3 月までに ACPP 準備委員会を立ち上げ, 開催地委員長等を選任し, 開催地等の検討に入ることが説明され, 了承された. また, 開催地委員長は 2027 年の ACPP ハノイ大会においてアジア植物病理学会 (AASPP) 副会長として選任されることが説明された.
 13. JGPP 完全 OA 化の方針について (高橋会長)
 - JGPP 完全 OA 化に関して, これまでの評議員会と将来問題検討委員会での審議内容を勘案した上で, 今年度の科研費 (研究成果公開促進費) に応募した旨, 及び科研費採択の可否決定後に関する想定を説明し, 評議員からの承認を得た.
 - 曳地評議員より, 完全 OA 化後の出版予算に関して, 科研費終了後の学会の対応に関する質問があった. 高橋会長より, 現在無料としている投稿料を有料化することで出版費用の一部に充てる考えが示された. また, 科研費終了後も継続して申請し採択されるよう努力することを想定している旨の説明があった.
 - 森山評議員より, ページレイアウト等の経費に関する質問があった. 高橋会長より, 現在は中西印刷に依頼している, 論文投稿時の Word ファイル等を PDF 化する等にかかる経費である旨の説明があった.

以上
- ## II. 報告事項
1. 令和 8 年度副会長候補者および令和 8・9 年度監事選出の選挙結果について (津田選挙管理委員長)
 - 令和 8 年度の副会長候補者に秋光和也氏, 令和 8・9 年度の監事に大島研郎氏, 森山裕充氏, 渡辺京子氏が選出されたことが報告された.
 2. 令和 8・9 年度評議員選挙結果 (津田選挙管理委員長)
 - 令和 8・9 年度の評議員選挙結果について説明があった.
 3. 令和 7 年度日本農学進歩賞の受賞について (佐々木庶務幹事長)
 - 本学会が推薦した井上貴之氏が受賞したことが報告された.
 4. 令和 7 年度大会開催報告 (秋光大会委員長)
 - 高松大会は対面開催で実施したが, コロナ前と同等まで参加者が回復し, 収支決算が黒字となったこと, 大会と併せて開催した日韓シンポジウムにおいても高松市からの会議助成を得たこともあり黒字となったこと, 運営費抑制に向けた業者選定方法等を大阪大会事務局に引き継ぐことが報告された.
 5. 令和 7 年度部会・研究会等の開催準備状況 (松下庶務副幹事長)
 - 代表等変更があった場合は速やかに報告してほしい旨を周知した.
 6. 令和 9 年度大会準備状況について (佐々木庶務幹事長)
 - R9 年度大会について新潟コンベンションセンターにて 3 月 25 日から 27 日の期間で開催予定であることが説明された.
 7. 編集委員会報告 (磯貝編集委員長)
 - 英文誌および和文誌の投稿状況や受理状況およびインパクトファクター値などについて報告された. 国内外ともに投稿が増えており, 受理数も昨年度と同等になる見込みであるが, 国外からの受理数は昨年よりも減っていること, 2024 年のインパクトファクター値が 1.2 へと上昇したことが報告された.
 8. 病名委員会報告 (佐藤病名委員長)
 - 病名目録第 3 版の取りまとめに向けた今後の予定について説明があった. 最新の植物分類体系に基づき, ウイルス・ウイロイドの宿主を取りまとめている旨の説明があった.
 - 病名データベースに利用しているジーンバンクのサーバが 2026 年 1 月から停止の見込みであり, 停止中は第 3 版の参照をお願いしたい旨の説明があった.
 - マツ類そうほう病について, 農水省消費安全局から問い合わせに対応して, 目録及びデータベースから削除済みである旨の説明があった.
 9. 国際化対応委員会報告 (曳地国際化対応委員長)
 - 日韓シンポジウムについて, 次回韓国側の開催が決定した後に日韓シンポジウム対応委員会で今後の対応を検討する旨の説明があった.
 - 国際学会参加助成について, 10 名の応募の中から 3

名を選定し、参加報告は次年度の学会報1号に掲載見込みである旨の報告があった。

10. 将来問題検討委員会報告（公開促進費（国際情報発信強化）申請、賞状定型文化）（高橋会長、佐々木庶務幹事長）
 - 審議事項11と13の内容と重複するため、詳細は省略する旨の説明があった。
11. 技術士対応委員会報告（濱本技術士対応委員長）
 - 大阪大会にて対策セミナーを実施する計画である旨の説明があった。
12. ダイバーシティ推進委員会報告（中馬ダイバーシティ推進委員長）
 - ダイバーシティセミナーを高松大会1日目に実施したことが報告された。大阪大会では3月26日に外部から発表者を招聘し、第4回セミナーを実施する見込みである旨の説明があった。
13. 広報委員会報告（埋橋庶務幹事）
 - 佐々木庶務幹事長から本年度の活動内容としてコラム掲載についての報告があった。
14. 植物ウイルス分類委員会報告（藤植物ウイルス分類委員長）
 - 病名目録第3版のとりまとめにあわせて、日本に発生するウイルス・ウイロイド（2025）の改訂をすすめている旨の説明があった。
15. 一般社団法人日本農学会関連報告（佐々木庶務幹事長）
 - 日本農学賞を久保先生が受賞した旨の報告があった。
 - 2025年9月1日に開催された2025年度第2回日本農学会運営委員会的主な議事内容について報告があった。
16. 公益財団法人農学会 農学教育推進委員会報告（濱本評議員）
 - JABEE負担金として5万円を支出しているが公益財団法人農学会負担金へと変更する方が適当である旨の説明があった。
17. 日本微生物学連盟報告（高橋会長）
 - 2025年7月15日に開催された第33回日本微生物学連盟理事会の議事内容について報告された。学会からIUMSに分担金10万円を支出している旨の説明があった。
18. 3学会会長懇談会報告（高橋会長）
 - 2025年11月20日に開催された3学会会長懇談会の議事内容について報告があり、今後も3学会の連携を継続することを確認した旨の説明があった。
19. 協賛依頼（報農会）について（佐々木庶務幹事長）
 - 2025年9月26日に開催された第40回報農会シンポジウムに協賛したことが報告された。協賛申請は評議

員会の承認が必要な案件であるが、例年申請が3月の評議員会以降に届くため、事後承認の形となっている旨の説明があり、評議員による承認を得た。

20. 日本植物防疫協会との業務委託契約更新について（佐々木庶務幹事長）
 - 前年と同内容で業務委託契約の更新を行ったことが報告された。
21. その他
 - 特になし。

一般社団法人日本植物病理学会 令和7年度第4回評議員会議事録

開催日時:2025年12月22日(月)~2026年1月6日(火)

開催場所:メール審議

出席者:秋光和也, 秋野聖之, 青木孝之, 有江 力, 一瀬勇規, 中馬いづみ, 藤 晋一, 古屋成人, 萩原寛之, 濱本 宏, 長谷 修, 曳地康史, 平塚和之, 平田久笑, 稲田 稔, 磯貝雅道, 海道真典, 兼松聡子, 小林括平, 児玉基一朗, 草場基章, 増田 税, 三瀬和之, 守川俊幸, 森山裕充, 中保一浩, 中島千晴, 大里修一, 大島研郎, 大藤泰雄, 佐藤 衛, 志村華子, 篠原弘亮, 清水将文, 塩見 寛, 相馬 潤, 須賀晴久, 鈴木信弘, 高垣真喜一, 高野義孝, 竹本大吾, 竹下 稔, 東條元昭, 土佐幸雄, 津田新哉, 柘植尚志, 渡辺京子, 山次康幸, 吉田重信, 善林 薫, 高橋英樹会長, 眞岡哲夫副会長, 佐々木信光庶務幹事長

以上評議員53名(定員53名)

審議事項

1. 学会賞と学術奨励賞の表彰状の定型文面について

第3回評議員会において審議した表彰状の定型文面案に関して、細則に書かれている学会賞と学術奨励賞の主旨を踏まえて、両賞の目的の違いがより明確になるよう、文言の一部を差異化した修正案について審議を行った。表現の一部について意見が出されたため再修正案を提示したところ、異議はなく承認可決された。

一般社団法人日本植物病理学会令和7年度第3回理事会議事録

日 時:2025年11月22日(土)16時40分~16時50分

場 所:日本植物防疫協会ビル会議室(〒114-0015 東京都北区中里2-28-10)

オンライン(Zoom ミーティング)によるハイブリッド開催
出席者(対面):高橋英樹会長(代表理事), 眞岡哲夫副会

長（代表理事）、秋野聖之（オンライン）、有江 力、兼松聡子、児玉基一朗、須賀晴久、竹下 稔、平塚和之、藤 晋一、吉田重信

以上理事11名（現員12名、欠席者1名：高野義孝）

監事：濱本 宏、大島研郎、渡辺京子（オンライン）

以上監事3名（現員3名）

オブザーバー：佐々木信光、松下陽介、藤本武人、加藤寛（オンライン）、浦山俊一（幹事5名）

審議事項

1. 令和8年度事業計画書および収支予算書について
2. 令和7年度第3回評議員会の審議事項の確認
3. その他

議事経過の概要

11月22日、ハイブリッド（対面およびオンライン）式にて開催された令和7年度第3回評議員会の終了後、引き続き評議員を兼任する理事11名、監事2名が参加していることを確認した。

定款第32条により、高橋理事が議長となった。理事および監事の出席者数から、定款33条の規定を満たしており、本会の成立を報告した。

1. 第1号議案 令和8年度事業計画書および収支予算書について

議長より、資料に基づき、令和8年度事業計画書および収支予算書の説明がなされた。議長が本件の承認を求めたところ、全員異議なく、本件は承認可決された。

2. 第2号議案 令和6年度第3回評議員会の審議事項の確認

議長より、同日、本会に先立って開催された令和7年度第3回評議員会において、審議承認された以下の6件、

- 1) 学会賞、学術奨励賞の受賞者候補の決定
- 2) 日本農学賞候補者の推薦
- 3) 令和7年度大会の会計報告
- 4) 令和8年度大会への仮払金の増額
- 5) 規定および細則の改正
- 6) 日本植物防疫協会への学会事務業務委託契約

について説明がなされた。議長より、理事会での承認を求めたところ、全員異議なく、本議案は承認可決された。

3. 報告事項

議長より職務執行状況の報告として、令和7年度の事業計画に沿って遅滞なく事業計画を進めていることが説明された。また、令和7年度第2回理事会議事録の報告等が行われた。濱本理事より職務執行状況報告は誰に対する説明かという質問があり、高橋代表理事より監事に対する説明

責任と承知している旨の説明があった。

以上をもって、終始異常なく議事が終了したので、議長は閉会を宣言し、16:50 散会した。

令和8年度事業計画書ならびに収支予算書

1. 行事案

- (1) 学会報（英文誌第92巻1～6号、和文誌第92巻1～4号）を発行する。
- (2) 大会、部会、談話会、研究会等を開催する。
 - 1) 大会：令和8年3月26～28日 摂南大学（枚方市）
 - 2) 北海道部会：令和8年10月8～9日 道民活動センターかでの（札幌市）
 - 3) 東北部会：令和8年9月10～11日 いわて県民情報交流セ（盛岡市）
 - 4) 関東部会：令和8年9月10～11日 明治大学（川崎市）
 - 5) 関西部会：令和8年9月上旬頃 県立広島大学（広島市）
 - 6) 九州部会：令和8年11月頃 未定（宮崎市内）
 - 7) 第35回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム：令和8年3月25日予定 摂南大学（枚方市）
 - 8) 第25回植物病原菌類談話会：令和8年3月28日 摂南大学（枚方市）
 - 9) 第60回植物感染生理談話会：令和8年9月2日～4日 東京大学（東京都）
 - 10) 令和8年度植物病害診断研究会：令和8年秋予定 開催場所未定
 - 11) EBC研究会ワークショップ：令和8年9月頃予定 開催場所未定
 - 12) 第20回植物病害診断教育プログラム：令和8年9月7～11日 帯広畜産大学（帯広市）
 - 13) 第32回土壌伝染病談話会：令和8年8月下旬～9月上旬頃 名城大学（名古屋市）
 - 14) 第31回植物細菌病談話会：令和8年度秋予定 開催場所未定
 - 15) 第18回バイオコントロール研究会：令和8年3月28日予定 摂南大学（枚方市）
 - 16) 種子病理研究会：令和8年6月頃 開催場所未定
- (3) 定時総会：令和8年3月 令和7年度事業報告・決算承認および令和8年度理事選任
 理事会：令和8年度第1回（令和8年2月）定時総会議案審議
 令和8年度第2回（令和8年3月）代表理事選任
 令和8年度第3回（令和8年11月）令和9年度事業計画・予算承認

- 評議員会:令和9年度第1回(令和8年2月) 定時総会議案審議
 令和8年度第2回(令和8年3月) 令和8年度委員等選任
 令和8年度第3回(令和8年11月) 令和9年度事業計画・予算承認
- (4) 学会賞, 学術奨励賞, 論文賞等の選考を行う。
 (5) 大会において学生優秀発表賞の選考を行う。
 (6) 名誉会員, 永年会員の推挙を行う。
- (7) 令和9年度理事候補者(次期副会長候補者)の選出を行う。
 (8) 令和9年度理事候補者(次期会長候補者, 次期副会長候補者)を総会へ推薦し, 次期会長候補者, 次期副会長候補者として理事会への推薦を行う。
 (9) 日本農学賞, 日本農学進歩賞, 日本学術振興会賞等の受賞候補者の推薦を行う。
 (10) その他

2. 一般会計収支予算書(令和8年1月1日から令和8年12月31日まで)

科 目	2026年度	2025年度	(単位:円)
	予 算 額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	17,036,000	16,325,000	711,000
正会員会費	9,500,000	9,149,000	351,000
学生会費	640,000	563,000	77,000
学部生会員	37,000	32,000	5,000
外国会員会費	24,000	16,000	8,000
準会員	1,335,000	1,365,000	△ 30,000
賛助会員	5,500,000	5,200,000	300,000
会報刊行収益	2,241,000	2,533,000	△ 292,000
頒布収益	2,110,000	2,340,000	△ 230,000
広告料収益	100,000	178,000	△ 78,000
著者負担収益	31,000	15,000	16,000
事業収益	21,744,500	21,399,000	345,500
大会運営	15,590,000	16,088,000	△ 498,000
部会	2,714,000	2,568,000	146,000
談話会・研究会	2,574,500	1,753,000	821,500
教育プログラム	866,000	990,000	△ 124,000
雑収益	43,000	203,000	△ 160,000
預金利息	32,000	3,000	29,000
雑収益	11,000	200,000	△ 189,000
経常収益計	41,064,500	40,460,000	604,500
(2) 経常費用			
会報刊行費	8,950,000	9,195,000	△ 245,000
印刷製本費	5,150,000	5,395,000	△ 245,000
編集費	3,800,000	3,800,000	0

事業費	22,121,000	22,345,000	△ 224,000
大会支出	15,040,000	16,088,000	△ 1,048,000
部会支出	2,840,000	2,542,000	298,000
談話会・研究会	2,880,000	2,343,000	537,000
教育プログラム	1,361,000	1,372,000	△ 11,000
学術奨励関係費	720,000	705,000	15,000
国際学術交流費	200,000	400,000	△ 200,000
情報電子化費	837,000	824,000	13,000
HP 充実費	403,000	10,000	393,000
情報維持費	434,000	814,000	△ 380,000
ダイバーシティ推進支援費	400,000	400,000	0
広報費支出	100,000	100,000	0
負担金	695,000	695,000	0
男女共同参画	15,000	15,000	0
公益財団法人 農学会	50,000	50,000	0
日本農学会	120,000	120,000	0
日本微生物学連	100,000	100,000	0
国際植物保護科	50,000	50,000	0
国際植物病理学会 (ISPP) 負担金	360,000	360,000	0
事業運営費	2,881,000	1,900,000	981,000
会議費	300,000	200,000	100,000
旅費交通費	1,500,000	200,000	1,300,000
病名委員会	1,081,000	1,500,000	△ 419,000
管理費	6,234,000	4,980,000	1,254,000
通信運搬費	550,000	400,000	150,000
消耗品費	70,000	70,000	0
事務管理費	3,190,000	3,190,000	0
減価償却費	1,100,000	0	1,100,000
印刷費	154,000	150,000	4,000
外部会計監査費	300,000	300,000	0
雑費	870,000	870,000	0
経常費用計	43,138,000	41,544,000	1,594,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,073,500	△ 1,084,000	△ 989,500
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 2,073,500	△ 1,084,000	△ 989,500
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0

当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2, 073, 500	△ 1, 084, 000	△ 989, 500
一般正味財産期首残高 (見込み)	80, 211, 068	84, 129, 809	△ 3, 918, 741
一般正味財産期末残高	78, 137, 568	83, 045, 809	△ 4, 908, 241
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	78, 137, 568	83, 045, 809	△ 4, 908, 241

3. 学会報編集計画案

(1) 編集機関

学会報第 92 巻の編集は、英文誌 (Journal of General Plant Pathology), 和文誌 (日本植物病理学会報 Japanese Journal of Phytopathology) とともに下記のように北海道大学にて行う。

編集事務局：北海道大学農学部

編集委員長：志村華子 (北海道大学)

編集副委員長：秋野聖之 (北海道大学)

編集幹事長：中原健二 (北海道大学)

印刷：英文誌 Springer Nature Singapore Pte Ltd.
和文誌 中西印刷 (株)

発行日：英文誌 1号1月, 2号3月, 3号5月,
4号7月, 5号9月, 6号11月

和文誌 1号2月, 2号5月, 3号8月,
4号11月

(2) 投稿要領

原稿は投稿規程・細則に従って作成し、和文誌については、編集副委員長 (秋野聖之, jgppijp@agr.hokudai.ac.jp) 宛にメール送付すること。

英文誌については、ウェブサイト <https://www.editorialmanager.com/jgpp/> にアクセスして投稿すること。

2025 年度第 3 回日本農学会運営委員会議事録

日時：2025 年 12 月 8 日 (月) 15 時～16 時 00 分

場所：ZOOM 会議

出席者：大杉 立会長，金子豊二副会長，小崎 隆副会長，佐藤秀一監事，羽藤堅治監事，奈島賢児 (園芸 (代))，松下範久 (樹木医)，米山香織 (植調)，龍原 哲 (森計)，土肥哲也 (生態)，片岡美喜 (地域経)，岩田洋佳 (育種)，殿塚隆史 (応糖)，田渕 研 (応動昆)，矢沢勇樹 (海水)，太田能之 (家禽)，古橋 元 (国地開/フード)，松村一善 (砂丘)，鈴木雅京 (蚕糸)，春原由香里 (雑草)，田

中 聡 (芝草)，中川貴之 (獣医)，佐々木信光 (植病)，太田祐子 (森林 (代))，広瀬美由紀 (水工)，安永円理子 (生環)，齋藤勝晴 (草地)，中村和彦 (造園)，松田二子 (畜産)，谷口雅章 (動遺伝)，神谷岳洋 (土肥)，上吉原裕亮 (熱農)，植山秀紀 (気象)，田口光弘 (農経)，野尻秀昭 (農化 (代))，建石邦夫 (農作)，松脇貴志 (繁殖)，中塚博子 (ペドロ)，秋山拓也 (木材)，小林研治 (木材加)，五月女格 (食料工)，西田和弘 (農村工)，栗田英治 (農計)，杉野弘明 (復興)，林 雅秀 (林経)，黒住圭子 (事務担当)

欠席者：酒井 徹 (シス農)，大久保研治 (実農)，高橋輝昌 (森立)，小山寛喜 (水産)，大浦裕二 (経営)，吉田誠 (木保存)，嶺田拓也 (有機)，中村華子 (緑化工)，小島陽一郎 (農施)，石神靖弘 (農情)，落合 陽 (木質)

議長：大杉会長

進行：松脇庶務担当常任委員

議事：

- 2025 年度第 2 回日本農学会運営委員会議事録 (案) の承認について
- 2025 年度事業報告 (案)
- 2025 年度収支決算報告 (案)
- 2026 年度事業計画 (案)
 - シンポジウムテーマ・話題提供募集について
- 2026 年度収支予算計画 (案)
- 2026 年度社員総会および日本農学賞選考会について
- 役員改選にともなう推薦依頼
- 2026 年度会員 (学協会代表者)・運営委員・常任委員について
- 2026 年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表順
- その他
 - 日本農学会 100 周年について

松協常任委員より、運営委員の過半数の出席がありこの運営委員会は成立している旨が報告され、議題に先立ち大杉会長より挨拶があった。

議事 1. 2025 年度第 2 回日本農学会運営委員会議事録(案)の承認について

松協庶務担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事 2. 2025 年度事業報告(案)について

松協庶務担当常任委員より資料に基づき事業報告【案】説明があった。シンポジウムについては古橋企画担当委員から報告があった。

議事 3. 2025 年度収支決算報告(案)について

建石会計担当常任委員より資料に基づき説明があった。

議事 4. 2026 年度事業計画(案)について

松協庶務担当常任委員より資料に基づき、第 97 回日本農学大会は弥生講堂で開催、2026 年度日本農学会シンポジウムの開催、2025 年度日本農学会シンポジウム講演要旨の公開、(公財)農学会第 25 回日本農学進歩賞の共催、各種委員会の開催、その他関連シンポジウム等への後援について説明があった。

(1) シンポジウムのテーマおよび話題提供募集について

殿塚企画担当常任委員より資料に基づき説明があった。運営委員会に先立ち行われて理事会で「コメとクマから見えてきた我が国の農業の課題」のタイトルが決定された旨説明があった。

日本海水学会の矢沢運営委員より、非常に早急性を求める話題なので、一年後のシンポジウムでは遅いのではとの意見がだされた。

殿塚企画担当常任委員より、米、クマが話題にはなっているが、緊急に米、クマを意図している訳ではなく、米、クマの問題から浮き彫りになってきた、害獣の問題、食料の問題点を考えていきたいとの説明があった。

話題提供募集について事務局から依頼をお送りするので、話題提供のお願いがあった。

議事 5. 2026 年度収支予算計画(案)について

建石会計担当常任委員より資料に基づき、予算は節減する方向で予算案を作成していることが説明された。

議事 6. 2026 年度総会および日本農学賞選考会について

松協庶務担当常任委員より資料に基づき説明があり、選考会は昨年同様 13 時から開始されることが報告された。

議事 7. 役員改選にともなう推薦依頼

松協庶務担当常任委員より資料に基づき、役員改選にともなう推薦依頼がされた。また、定款により大杉会長、佐藤監事の再選できないことが説明された。

議事 8. 2026 年度会員(学協会代表者)・運営委員・常任委員について

松協庶務担当常任委員より資料に基づき会員(代表者)、運営委員、常任委員の説明があった。なお、2026 年度常任委員は、現常任委員の 3 名(日本応用糖質学会、日本土壌肥料学会、農業農村工学会)に加え、新たに日本ペドロロジー学会、日本木材加工技術協会、日本有機農業学会の 3 名が就任することが報告された。

議事 9. 2026 年度日本農学賞受賞候補業績の推薦学会発表順

松協庶務担当常任委員よりあみだくじアプリを利用して行うことの説明があり、古橋企画担当委員の進行により抽選が進められた。厳正な抽選により以下のように推薦学会による発表順が決定された。

発表順(以下 13 件)

1. (一社)日本農薬学会
2. (公社)日本水産学会
3. (公社)農業農村工学会
4. (一社)日本森林学会
5. (一社)日本応用動物昆虫学会
6. (一社)日本作物学会
7. (一社)日本育種学会
8. (一社)日本土壌肥料学会
9. (公社)日本畜産学会
10. 日本熱帯農業学会
11. (一社)日本植物病理学会
12. (一社)日本応用糖質学会
13. (公社)日本農芸化学会

議事 10. その他

1) 日本農学会 100 周年について

松協庶務担当委員より資料に基づき日本農学会 100 周年について、次期会長を委員長として実行委員会を立ち上げ、記念事業(式典、シンポジウム)、日本農学 100 周年史などを検討していただくことが説明された。

最後に、今期で退任の常任委員 3 名、古橋企画担当常任、建石会計担当常任委員、松協庶務担当委員から挨拶があった。

以上